

玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411

<http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo>

1512年に伊勢宗瑞(後の北条早雲)が鎌倉市の城廻に築いた玉縄城の築城五百年祭が開催されました。玉縄城址周辺のまちづくりを進める六十年越しの市民の活動が実ったものです。

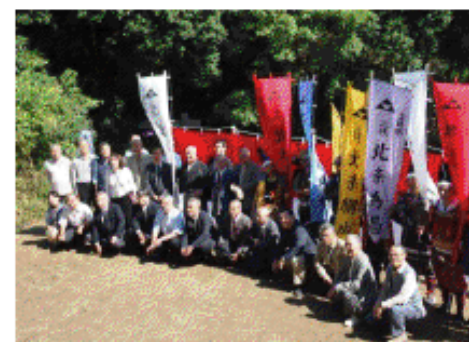
歴代城主法要会
歴代玉縄城主を偲んで菩提寺でもある龍寶寺本堂で玉縄地区6ヶ寺の住職による法要会を行いました。



早雲が築城した玉縄城の祭り 玉縄城築城五百年祭 開催される



記念式典
鎌倉小田原両市長を迎え清泉女学院で式典を行いました。



ご登城コースまつり
七曲坂を登り冠木門、太鼓櫓、大手門、諏訪壇と続くご登城コースまつりへ多くの市民が訪れ、往時を偲びました。



冠木門開通式
七曲坂に市民が手作りで建てた冠木門を早雲と六代城主が先導し通り初めを行いました。



五百年祭パレード
青空の下、音楽に乗って大人も子供も元気に行進しました。私たちは五百年祭を通過点に玉縄の未来に前進します。



市民がつくる玉縄
新しい玉縄は市民がつくりまします。私たちのふるさととは市民の知恵と汗でつくりまします。

「玉縄城址まちづくり会議」の活動

2012(平成24年)5月～11月)

<玉縄城址公園化事業>

- ・月例アダプト七曲坂の美化整備
- ・太鼓櫓址「市民緑地」の美化整備
- 玉縄城緑地愛護会活動開始

<玉縄ふるさと館事業>

- ・多くの団体見学者に対応
- ・小学生の社会科学習西鎌小案内
- ・寺子屋七夕篠笛の夕べを開催
- ・毎月女性会員による古民家清掃

<アカデミア文化事業>

- ・連続セミナー第13回6月30日「北条早雲と鎌倉そして玉縄城」を黒田基樹氏を迎え清泉女学院で開催
- ・連続セミナー第14回10月8日「戦国北条氏と鎌倉そして玉縄城」を、小和田哲男氏を迎え清泉女学院で開催
- ・学習センター郷土資料コーナー北条早雲と鎌倉・玉縄城展 6月～早雲公肖像画、新玉縄城鳥瞰図展示、玉縄城を中心に大庭城、荏柄要害の関係の研究も発表。

<玉縄城築城500年祭>支援

- ・玉縄城を偲ぶご登城コースの装飾制作開始、城主の幟旗、冠木門の塗装、案内看板制作を仕上げる。
- ・偲ぶご登城コースまつり開催

<企画広報担当事業>

- ・次年度も市との協働事業を提案。
- ・鎌倉市観光商工課の「かまくらの道」の改定作業 500部印刷配布。
- ・玉縄城ガイド勉強会を進める
- ・広報紙「玉縄城 まちだより」10号、11号発行



天皇皇后両陛下御視察の様子(昭和39年3月)



開園式場の入園口 昭和37年

フラワーセンター大船植物は昭和37年7月16日に開園し、今年でちょうど50周年を迎えました。この地は昭和34年まで県の農事試験場があったところで、既に大正時代から、大船系として今も残っている芍薬(シヤクヤク)や

花菖蒲(ハナショウブ)等が改良・育成されてきました。開園当時周辺は水田等の低地が広がり、近接する柏尾川の氾濫にも悩まされる等の苦労がありました。観賞植物の増殖と展示を併せて行う施設は当時はまだ少なく、39年3月には天皇皇后両陛下をお迎えし、全国的にも注目されました。地域の皆様にも愛されて50年、これからも緑や花に親しめる憩いの場を提供していきたいと思ひます。

玉縄思い出写真館

神奈川県立フラワーセンター大船植物園

副園長 合志 伊和雄

2013年(平成二十五年)

活動予告

玉縄城址自然観察会

「七曲坂・市民緑地の探鳥会」
講師：久保 廣晃氏

七曲坂の美化奉仕の後、さえずりで野鳥の名前を憶えましょう。

1月5日(土) 9:00～12:00

会場：七曲坂広場
参加費：資料代含み300円
募集人数：30人

玉縄歴史アカデミア

連続セミナーNo.15

綱成・氏繁と鶴岡八幡宮」
講師：伊藤 一美氏

2月10日(日) 14:00～

会場：玉縄学習センター
参加費：資料代含み800円
募集人数：30人

雛祭りお話し会

3月3日(日)

会場：玉縄ふるさと館
参加費：お土産つき200円
募集人数：30人

第7回総会4月中旬

歴史の道七曲坂から

太鼓櫓址・市民緑地へ

鎌倉アダプト・プログラムと「玉縄城緑地愛護会」で整備活動いたしましょう。草取り・落ち葉掃きにご参加ください。道具は用意してあります。

毎月第1土曜日、第3日曜日 9:00～11:00

問合せ：団体見学申し込みは玉縄城址まちづくり会議

☎ Fax 0467-457411



イネ！くださいね

(FB管理 上島のりひろ)

編集後記

当会では、情報提供の迅速性と会員、地域の皆様始め、玉縄城址に関心がある方々同士の情報交換や親交の場をフェイスブックに設けました。是非QRコードからアクセスください。

インタビュー～玉縄万華鏡～

玉縄から始まった

私の教育人生

熊代徳彦さん

―玉縄地域とのご縁は？―

新任教師として玉縄小学校へ赴任したのが、昭和三十六年九月です。すぐに一年生の担任になりました新人に一年生を任すとは何事かとお母さんたちが押しかけても、校長先生は泰然としておられました。当時の玉縄は水田だらけでしたよ。校庭だってすぐにぬかるんできます。その代り、自然に恵まれていてほんとうにすてきな学校でした。よく生徒を連れて田谷の洞窟あたりまで足を延ばしました。雪の降る最中に栄光坂から山道に入って城山で雪合戦したこともありましたね。



鎌倉市長 熊代徳彦さん

あの頃の玉縄には、わくわくするような思い出が詰まっています。その後、玉縄を離れ、六十三年の四月にまた玉縄小へ教頭として戻りました。そのときには、嘗ての生徒同士が結婚していたり、最初の生徒の子供がいたり・・・今でも同窓会でみんなと会うのを楽しみにしています。

そして、平成十二年から教育委員会教育長として鎌倉の子どもたちを見守ってきました。

―昔と今の教育の違いは？―

いろいろありますが、昔は二年持ち上がりが多かったの、じつくりと子どもと付き合い、生徒の良さにも目が届いた。今は毎年クラス替えがあり、どうしても先生の交流が希薄になりがちです。中学一年生の中には、不登校傾向に陥る子もいるので、それを解決していく努力もしていかなければなりません。

―改善策はありますか？―

来年から小学校と中学校の交流の機会を増やすことになりました。子どもたちにとって「交流」が大切なのです。

―先生のご指導を頂き進めてきた当会活動については？―

玉縄学習センター郷土資料コーナーの展示活動、龍寶寺の玉縄ふるさと館の活用事業も、地域の文化啓発

活動として玉縄城址まちづくり会議の成果です。そして「玉縄歴史アカデミア」は玉縄の素晴らしさ鎌倉の素晴らしさを次々に発見してまね。

―子どもと一緒にできる市民活動は？―

前にやっていた「玉縄の歴史と自然の学校」はとてもよかったですよ。僕の横須賀での少年時代は、モチの木と竹で作った虫取り竿で、銀ヤンマを追いかける毎日でした。子どもたちには自然と遊ぶ楽しさを体験することが必要です。玉縄の小学生には玉縄の土の上を走り、玉縄の緑の中で過ごす機会を与えられたいですね。

―来年から地権者のご厚意で、里山のみどりを増やす「植栽」活動や自然観察会を計画しています。健康な子どもたちを育む玉縄城址の豊かな森づくりを次の活動の夢にしたいです。―

玉縄の子どもたちのためにもその活動を実行してください。

―玉縄城址まちづくり会議について？―

六年前、今の荒井会長に呼ばれて前市長と一緒に玉縄城址を訪れ、玉縄城の再発見と玉縄城の築城500年祭の話も初めて聞きました。今年はそれが実現する・・・皆さんの実行力に本当に感心しています。

汗かき・知恵出し・声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

玉縄界隈の思い出

鈴木良明

四十年ほど前のことである。鎌倉市教育委員会で郷土史研究をされていた木村彦三郎(故人)さんのお伴で玉縄界隈を歩いたことがあった。

木村さんの目的のひとつは、当時の龍寶寺ご住職であり、鶴見大学図書館長でもあった團野弘之師(故人)にお目にかかること。玉縄の地域研究をするうえに欠かせない史・資料の収集・保存を先駆的になさっていた師との情報交換をするつもりであつたらしい。師は、初対面の私に対し、旧石井家住宅の保存を語り、加えて史・資料をなんとしてでも在地にて保存すべきだと熱く説いた。返す刀で、今度は質問が飛ぶ。『つたい君は何をしたいのかネ』『この地域には資料が未だ眠っている。この発見・保存なくして研究はないナ』とにべもない。説破・・・降参。

そんな師との初対面のある時、玉縄地域が「新井白石知行地」であつたとの話しに及んだことがあり、研究すべき課題を提示されたように思えた。だが、これ以降地頭新井氏と当地の係わりを調べもせず等閑にうち捨て置くままであつた。

それからまた随分と後のこと。江戸成立の「鎌倉大仏縁起」を読む機会に恵まれ、江戸期の大仏復興に江戸浅草の「野島新左衛門」が大檀越として深くかわつていたと知った。しかし「縁起」は、復興さなかの大仏がある事件にかかわつた「野島新左衛門」の遠島で、再び零落の憂き目にさらされたと展開する。いうまでもなく、新井白石は幕政を立て直すべく「正徳の治」の改革を実行した儒官。鬼の白石」といわれ儒教道徳に基く政策論を展開し「正徳金銀改鑄」を進言、多くの反対があつたもののこれを断行した。実は、この改鑄政策に反対した者の中に「野島新左衛門」の名を見つけて驚いた。白石著「折りたく柴の記」に幕政を妨げたとして、正徳四年(一七一四)流刑に処せられたとあつたらだ。正徳元年、新井白石の知行地が植木村・城廻村に宛行われた。野島新左衛門が元禄地震で破損していた大仏の復興事業に邁進していたのもちようどこの頃であつたのだ。

両者の奇縁なる出会い。そんな事も知らんのか!」と團野師の喝破が聞こえそうだ。不勉強を恥じるばかりの思い出になりつつも、考えてみたい歴史の課題だ。

(鎌倉国宝館長)

歴史シリーズ 玉縄城主 北条氏勝

氏勝没後慶長十七年(一六一二)六月八日、氏勝の弟北条常陸介新左衛門尉繁広が没した。遺骸は岩瀬の大長寺の墓所に送られ、母の七曲殿祖母の綱成夫人・大頂院と同じ墓所に葬られた。繁広の嫡男北条安房守氏長は、徳川將軍家旗本として家禄の継続を許された。

岩富城で没した氏勝の、玉縄北条宗家は、家康、秀忠の命により氏重(保科正直の四男、母は家康の異父妹、文禄四年生まれ十七才)が養子となり、北条家を継ぎ、慶長十八年(一六一三)九月二十一日、従五位下出羽守に叙任された。その年の末に下野国富田(現栃木県下都賀郡大平町)に転封され、下総岩富城は廢城となった。翌十九年(一六一四)氏重は大阪冬の陣で和泉岸和田城を守り、元和元年(一六一五)大阪夏の陣にも出陣している。元和五年に駿河久能山城に転封。寛永十二年(一六三五)三月二十一日大番頭となる。寛永十七年九月二十八日下総関宿城(現・千葉県野田市)二万石にて転封。正保元年(一六四四)駿河田中城(現・藤枝市)に二万五千石で転封。



現在の掛川城

―熊代教育長は、奇しくも玉縄城の築城500年祭の年を迎える、この秋に退任されました。先生、有難うございました。

(9月インタビュー)

《玉縄城五百年祭こぼれ話》

▲清泉女学院から「玉縄城跡」が出版されました。昭和三十六年に整地直前の城跡を写真に記録した冊子を五百年祭を記念に復刊させたもので

す。▲式典に小田原から加藤市長が参加されました。私(荒井)が、墓前祭と北條五代祭りに出て北條太鼓の招聘も行いました。市長は今後の交流を約束しました。

▲早雲と玉縄城主が武者姿で登場しました。早雲には私が松尾市長には初代氏時に扮して頂きました。ごりや癖になりますね・・・と囁きあい



松尾市長と当会会長
根岸春雄氏撮影

慶安元年(一六四八)遠州掛川城に三万石で転封。

万治元年(一六六〇)六四才で没する。嗣子なきため、玉縄城築城以来脈々と続いた玉縄北條家もついに家名断絶となった。

北条氏重が掛川城に転封になった時、龍寶寺の玉縄北条氏の墓所を掛川城下に移転して檀家を離れた。間もなく城下に氏勝法号の上獄寺を創建して菩提寺とした。しかしここに氏重の墓はあるが、龍寶寺から移したと言われる玉縄北條家三代の墓はない。

平成二十三年三月、宝金剛寺で氏勝公四百年忌が盛大に行われた。